

# 第14回 日本免震構造協会賞 -2013-

第14回日本免震構造協会賞は、右の9件に決定した。

## 表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

## 表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した優れた建築物の実現に携わった個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

## 表 彰

2013年6月4日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

## 一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

深澤義和 (委員長) 丑場英温 川口健一  
篠崎 淳 古橋 剛 細澤 治  
真部保良 渡邊眞理

## 審査経過

本年度は、功労賞0件、技術賞3件、作品賞9件、普及賞9件の応募があった。なお、普及賞については、表彰委員会からの推薦3件を含んでいる。

技術賞の審査は、全件のヒアリングを受けた後、表彰委員過半以上の同意の下に選出した。作品賞の審査は、全作品について現地審査をおこなった後、表彰委員過半以上の同意の下に受賞作を選出した。普及賞は、応募内容を下に、これも表彰委員過半の同意を得て決定した。

技術賞の対象は、繰返し大変形下で積層ゴムの特性が変化することによる地震応答評価の方法を研究開発したもので、実務的にも有用な研究開発である。

作品賞は、免震構造1件、制振構造2件が選定された。いずれも、免震、制振の技術を用いて、優秀な作品となったものである。

## 選 考 結 果

第14回日本免震構造協会賞受賞は下記の9件である。

### I 技術賞

繰返し大変形下の積層ゴム力学特性変化と地震応答評価法に関する一連の研究

鹿島建設株式会社	竹中康雄	近藤明洋
	高岡栄治	引田真規子
東京理科大学	北村春幸	

### II 作品賞

1) ホテル近鉄京都駅

株式会社近鉄ホテルシステムズ	中山 勉	
株式会社日建設計	吉澤幹夫	白沢吉衛
	仁科誠治	
株式会社奥村組	野末 潔	

2) 溶接会館

社団法人日本溶接協会	宮田隆司	
鹿島建設株式会社	前田祥三	阿部太郎
	村松匡太	長井 勉

3) シティホールプラザ「アオーレ長岡」

長岡市	森 民夫	
隈研吾建築都市設計事務所	隈 研吾	
江尻建築構造設計事務所	江尻憲泰	
大成・福田・中越・池田共同企業体	松井幸夫	

### III 普及賞

1) チュリス西麻布耐震改修工事

2) 石燈籠の免震改修 - 靖國神社大 lantern -

3) 高崎市総合保健センター 高崎市立中央図書館

4) 地下空洞直上に建つ市庁舎の免震レトロフィット

5) ヨーロッパハウス

(敬称略)

普及賞の対象は、いずれも建設における課題の解決に、適切な免震、制振技術を応用しようとしたものであり、同種の課題をもつプロジェクトに対し有益な示唆を与える優れた業績である。このうち3件は、既存建造物の耐震改修であり、この分野に対する免震、制振技術の応用、普及に大きく貢献するものである。

なお、普及賞は前々回より協会賞に組み入れられたものであるが、評価の対象がわかりにくい面があるため、今回の協会賞募集要項には、評価の対象を例示することとした。

協会賞の審査において、応募作品全体のレベルが高くなってきていることが感じられる。実務上有効な技術、建設企画・計画・デザインとのマッチング、制振技術の応用、耐震改修など幅広い分野での業績が光っている。

(深澤義和)